Amentotaxus. J. Arnold Arb. **33**: 192–198. Rao, A.R. & M. Malaviya, 1964. The peculiar sclereids of *Cephalotaxus drupacea* Sieb. et Zucc. Proc. Indian Acad. Sci. **59**: 228–236. —— & ——, 1965. A comparative study of sclereids in some species of *Podocarpus*. Proc. Nat. Inst. Sci. India **31**: 67–80. Rao, A.R. & M. Sharma, 1973. Sclereids in Gymnosperms. Geophytology **2**: 126–154. Sugihara, Y., 1946. Morphologische Untersuchungen über *Amentotaxus argotaenia* Pilger. Bot. Mag. (Tokyo) **59**: 61–67. Yamamoto, Y., 1927. Suppl. Icon. Pl. Formos. **3**: 1. ——, 1932. Ibidem. **5**: 7–11.

* * * *

台湾産のウラジロイヌガヤ (*Amentotaxus argotaenia* Pilger) の芽生えには地上性・早落性の2枚の子葉が対生に生ずる。子葉は線形・全縁・無柄である。普通葉には葉肉の海綿状組織のなかに，きわめて特徴的な糸状の厚膜異形細胞がたくさん見られる。胚珠の珠皮は単一である。胚珠をつつみ十字対生に配列した5-7対の鱗片が見られる。この鱗片の向軸面には気孔があり，その形態は普通葉に見られる気孔と同型であるが副細胞が多少すくない。根の道管部は外原型・2原型である。

□木村陽二郎・柴岡孝雄・益田芳雄・駒嶺　穆（編）：**日本の植物学百年の歩み** 280 pp. 1982. 日本植物学会. 非売品. 日本植物学会は明治15年に創立されてから昨年で100年目を迎えた。9月に祝賀式を行い，種々の催しをして盛会であった。また一年半の期間を求めて植物学会及び斯学の100年史を編み，祝賀会の折に会員に配ったのが本書であった。希望者には井上書店（東京，本郷. ¥4800.）で販売される。本書は先ず学会創立までの前景を木村陽二郎が書き，次いで学会の百年（林　孝三），大学・研究所の百年（柴岡孝雄）が書いてあって，100年間の事項が手に取るように分かる。さらに分類学と形態学（金井弘夫等が分担），生理学と生理化学（増田芳雄），細胞学と遺伝学（田中信徳），生態学（沼田　真）と各氏が分担し，細かいところまで述べている。次に林　孝三が学会を主にした百年史を細かく載せ，最後に木村及び金井弘夫が，明治以後の物故植物研究者の伝記文献を40ページにわたって記している。100年というと短いとも思うが，人生からすれば永いもので，100年も経つと全く変ってしまってわからなくなる事が多いから夫々の記述は大変だったと思う。記して記念とし，さらに今後の発展を期待したいものである。　(前川文夫)